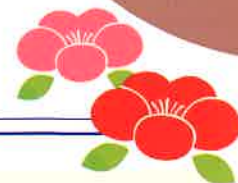




SAIE かわら版

国籍を超え、相互理解を深め、「つながり・きずな」を大切に



SAIE主催
イベント

参加者募集！

日本語支援ボランティア養成講座
教えるって、伝えるって？日本語教師のリアル
～教えるってこんなに面白い！
“伝える”を通じて広がる世界～

日程：2月12日（木）午後2時～3時半
場所：コミュニティプラザ会議室4
定員：25名
参加費：無料
申込：協会まで電話・メールで受付

最近では摂津市でも外国の方をよく見かけるようになりました。日本語教室でも地域で生活する外国の方が一生懸命に学習しています。私たちが普段話している日本語は世界でも難しい言語の一つと言われています。そんな日本語の学習をどのように手助けしたらいいのでしょうか？今回は、アメリカの留学生を対象に日本語を教えている先生方から教育現場での経験をもとにしたお話を聞きます。どんな教材を使い、こういった授業活動をしているのか、日本語を教える際に気を付けている点、また、日本語教師になったきっかけなどお話いただきます。日本語を教えることに興味がある方、既に日本語教育に関わっている方、リアルな本音を聞いてみませんか？



山田 麻美さん

（CET アカデミックプログラムアシスタント
アカデミックディレクター兼日本語専任講師）



松本 耕太郎さん

（CET アカデミックプログラムアシスタント
アカデミックディレクター兼日本語専任講師）



外賀 葵さん

（CET アカデミックプログラム
日本語専任講師）



SAIE主催
イベント

参加者募集！

国際理解講座



マルハバ(ようこそ)～モロッコの人々・学校から学んだこと～

世界を知り多様な人々と学び合うことの楽しさを子どもたちにも伝えていきたい... 海外協力隊員として活動した経験から、現地での暮らしや文化、日本との価値観のちがいがいなど、教育者の視点を交えてご紹介していただきます。異文化を理解するとはどういうことかを考える機会になるのではないのでしょうか。小学校教師である片上先生からのメッセージを生の声でお届けします。

日程：3月26日（木）午後1時半～3時
場所：コミュニティプラザ会議室1・2
発表者：片上綾子さん（摂津市立摂津小学校教師）
定員：25名
参加費：無料
申込：協会まで電話・メールで受付

講師からのメッセージ

学級担任だけでなく、日本語指導加配教員として外国にルーツのある児童と関わるなかで「世界を知ることの楽しさを伝えられる教員になりたい」と思い、JICA 海外協力隊を志望。2023年7月～2025年3月に小学校教育隊員として現職教員特別参加制度で派遣されました。モロッコでは北部のテトゥアンという街で生活をしながら、現地の小学生にフランス語やアラビア語で算数の基礎計算を指導。モロッコでは、タジン鍋の料理やクスクス、ミントティーなど、おいしい料理やお茶を色んな人と一緒に食べる習慣があり、「マルハバ（ようこそ）」といつもあたたかく迎えてくださる人々と関わりました。モロッコで実際に感じた文化・習慣のちがいや小学校の様子などをお話したいと思っています。

SAIE主催
イベント

予告！

2026年度「社会見学」開催のお知らせ

社会見学の日程が決まりました！今年は、淡路島で暮らす外国人研修生との交流などを予定しています。是非、皆さまの参加をお待ちしております。

※ 詳細は次号の「SAIE かわら版 103号」でお知らせします。

日程：5月27日（水）

行き先：淡路島方面
参加費：協会会員 4,000 円
一般 8,000 円

イベント報告

—日本語学習者による発表—

Hola!メキシコの文化に触れよう



発表者：ファビアン・カルデロン・ヘルナンデスさん
(立命館大学大学院留学生、せっつ日本語あじふ学習者)

開催日：10月30日(木) 午後1時半～3時

開催場所：コミュニティプラザ会議室1・2

参加者：22名

参加者の感想

- メキシコの文化や歴史について一生懸命説明してくださりありがとうございました。
- 歴史の話が多く、新たな理解ができました。身近な文化や国民の考え方、生活の様子などをもっと知りたかった。
- 独立戦争に参加されていた日本人の方がおられたことを知ることができました。
- 短い期間の日本語学習にしては上手な日本語で、話については理解できた。

メキシコって
どんな国？

- 69の民族が暮らし、290の言語が話されている。先住民は約26%で残りの多くはスペインから来た。北部と南部では言葉が全く違い通じない。国旗の色は、緑が希望、白が平和、赤が血を表している。
- 紀元前からアメリカ大陸で唯一文字の文化を発展させてきた。
- 1520年前後にスペイン人によって征服され、カースト制度が確立された。1810年～1820年頃、メキシコ独立戦争が起こり国内は混乱した。2000年まで制度的革命党の体制が続いた。
- 現在は経済的な不平等、麻薬密売の組織犯罪などの課題があるが、GDPは世界13位で貧困率も減少している。
- 1000以上のピラミッドがあり、世界遺産が35もある。
- 辛い料理が多く、料理がユネスコ無形文化遺産になっている。
- 亡くなった先祖がやってきて仕事を手伝ってくれるという「死者の日」の祭りは有名で、先住民の中には2カ月間さまざまな行事を行う習慣が残っている。



学習者からのお手紙 —日本語教室・さくらクラブ—

10月17日は藤森神社の宵宮がありました。また、10月25日はサンデリカ(近所の事業所)の感謝祭があり、学習者と一緒に参加しました。美味しいものをタップリ食べ、ビールも飲み、さくらクラブに戻って9時30分まで勉強。皆さんの熱意には感動。雨で大変でしたが、皆さんの楽しそうな様子を見て、私たちも嬉しくなりました。学習者の皆さんからお手紙をいただいたので紹介します。



〈写真右から〉

ドさん(ベトナム)、ジェヒョンさん(アメリカ)、
サンティさん(タイ)、ズンさん(ベトナム)、
チンさん(ベトナム)

昨日は本当に楽しく、先生方や皆さんに心から感謝しています。あいにくの雨でしたが、皆さんがわざわざ足を運んで迎えてくださったことに、とても感動しました。会社での食事本当に美味しく、食べながらビールを飲んで皆さんとお話しする時間はとても楽しかったです。雨の中でも、先生方が教室に戻りご指導くださったこと、改めてありがたく思います。

ドさん

昨日は大雨でしたが、先生方はとても熱心に迎えてくださり、パーティーに連れて行ってくださった上に、授業に戻って私たちにご指導くださいました。私たちはとても感動し、先生方に心から感謝しています。先生方のクラスに会い、先生方に熱心にご指導いただけることを、とても幸運でありがたいと感じています。

ズンさん

先生、先週末久しぶりにさくらクラブに行けて本当に嬉しかったです。里帰りの感じでした。よろしければ、毎週、単語帳の写真いくつかお願いしてもよろしいでしょうか？前も言ったと思いますが先生が作ってはったのに優れる教材を見たことがないので、12月の日本語能力試験に備えこれからどんどん語彙力を伸ばしたいのです。

ジェヒョンさん(愛知県豊田市から)



国際理解講座

へー、そうだったんだ！2025万博の裏話 ～マレーシアパビリオン、関西パビリオンより～

発表者：櫻井麻奈さん（マレーシアパビリオン）

日下和美さん（関西パビリオン）

開催日：12月4日（木）午後1時半～3時

開催場所：コミュニティプラザ会議室1・2

参加者：34名



マレーシアパビリオン

- 人気No.1の料理は「フライングロティチャナイ」*1。高く飛ばしながら回すパフォーマンスが人気で、回す訓練をした人や自国でチャンピオンになったマレーシア人が来ていた。
- マレーシア人のスタッフは日本語が話せない人が多く、言葉の壁があったが、フレンドリーな付き合いができた。インスタグラムでスタッフ同士が友達になれた。
- マレーシアでは日本の古い曲（花＊花やKiroro）が流行っていることを知って驚いた。
- 海外の人たちと一緒に働くためには、笑顔、あいさつ、気遣いのほかに、文化の違いを理解したうえで、「積極的に伝えたい」という意思を持つことが大切だと思った。
- 実はミャンマー人のスタッフも多く働いていた。マレーシア人はのんびりしていて、ミャンマー人はテキパキ働く印象があった。

*1 マレーシアの代表的な定番軽食。薄焼きのパンでカレーにつけて食べると美味しい。



参加者の感想

- 他の国のことを知るには、基本のあいさつと食の文化の体験を通して繋がること。また、異文化を知る機会が身近にあることも大切だと思いました。
- 裏側からしか分からない事を聞くことができて良かった。
- マレーシアパビリオンの楽しそうな雰囲気、よく分かりました。

オーストラリア・バンダバーグ 今年も園児たちが交流！



10月28日、30日に市立とりかいこども園と友好都市のオーストラリア・バンダバーグのフォレストビュー幼稚園とのZoom交流が行われました。両園では2021年から園での様子を写真やお手紙で送り合うなど、毎年交流を深めています。



関西パビリオン

- 滋賀県ブース：没入体験型（450個の球体と映像のコラボ）はとても美しく、万博期間中に発表された日本空間デザイン賞のエンターテインメント空間部門で金賞を取った。
- 和歌山県ブース：「wakayamaの森と恵みのペーリングセット」*2 6,000円は当初利用が少なかったが、同県出身のHYDEさんが来館され、召し上がったことから人気に火がついた。
- 海外からの来場者の多くは日本語ができたので、翻訳アプリを使うことなく、簡単な単語で気持ちを伝えることができたのが良かった。
- 海外パビリオンからVIPが来られる機会にその国のあいさつの言葉などを勉強することができた。
- 学んでいた手話を通じて外国の方とコミュニケーションできたことが嬉しかった。

*2 紀州桐箆の技術を使った引き出し付の切り株什器を使ったアフタヌーンティー。和歌山産の和菓子6種とドリンクのセット。湯浅醤油を使ったおかきと檜の香りのペーパータオルがセットになっている。



- 何でも楽しもう、何でもやってみようという気持ちが大切なのだと思います。
- マレーシア館は入れたのですが、関西パビリオンは予約した人だけしか入れなかったのが、今日色々とお話が聞けたので良かった。
- ミャクミャクの折り紙（講座のおみやげ）は良かったです。

英語で楽しむクリスマス会

～12/4 親子DE英語、12/5 子ども英語～

英語講座に参加している子どもたちが思い思いのコスチュームを身につけてクリスマス会を楽しみ、講師のデニス先生からプレゼントを受け取りました。



私は、摂津市と京都市の国際交流協会でボランティアをしています。長年友達が「京都案内倶楽部」で活動に携わっているのを聞いて、参加したことが始めたきっかけです。活動の内容は、京都在住の外国人を対象とし「外国人の知らない京都を案内する」ことです。自分たちで企画し参加者を募ります。大阪にもこのような活動が無いか探してみましたが、見つかりませんでした。探している中で私の住む摂津市にも協会があると知り、日本語サロンのボランティアに参加しました。活動内容は違いますが、私にとって、「異文化を知る」「自己理解と日本の良さの再認識」という点はどちらも同じです。

さて、今年は大阪で万博が開催され、大勢の外国人が来られていましたね。ダメ元で会場ボランティアに応募したところ、運良く会場での活動に参加できることになりました。外国語は堪能ではありませんが、片言の英語でも何とか通じていたような気がします。活動は、迷子センター、医療班、車いすなどの貸し出し、場内エリア活動を経験しました。中でもエリア活動はとても楽しかったです。大屋

根リング下で、開場とともに来場者の皆さんに、笑顔で「おはようございます。いってらっ

しゃいませ」と旗を振り出迎えると、色々な国の方が手を振って返してください、一緒に写真を撮ったり、とても楽しい時間でした。私にとって貴重な経験であり、かけがえのない財産になりました。

協会では、ボランティア活動を通して、外国人との関わり方や各国の風習について仲間や外国の方から教えて頂く事もたくさんあります。例えば、「外国人は雨の日に傘を差さない人が多い」「トイレトペーパーはトイレに捨てない国がある」などです。反対に、日本人はよく“どこの国から来たの？”と質問する、と言われたことがあります。中には、そのように聞かれることがあまり好きではない人もいますが、島国日本は陸続きではないので他国が気になるのでしょうか。

このように活動を通して、様々な日本が見えてくるようになりました。これからも自分が動ける間は、活動されている皆さんと外国人の皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。



砂漠と穀倉地帯は紙一重、ヨルダンの花と土

末岡 直樹さん（JOCA大阪職員・青年海外協力隊OB）

アラビア半島のつけ根、地中海にも近いヨルダン・ハシミテ王国は、国土の約80%が砂漠と土漠の荒野ですが、12月から3月中旬までの雨季を経て乾季に入り、4月末位までの一ヶ月程の期間、ヨルダン国花であり、この国でしか自生していないブラックアイリスを始めとする、様々な野生の草花が咲き乱れます。日本では自生していないポピー、シクラメン、マーガレット類や日本でもおなじみのアザミ等です。北アフリカのサハラ砂漠のように全く雨が降らないということはありませんが、ヨルダンの砂漠地帯は年間数十ミリという僅かな降水量です。しかし、現地の草花は逞しく生き残り、短い春を彩ります。

砂漠地帯なのになぜ豊かな花畑となるのか。ヨルダンの特殊な土に秘密があるのかもしれませんが。ヨルダンの輸出品不動の1位は植物の肥料の三要素の一つであるリン酸の原料リン鉱石です。国土の60%にリン鉱石が埋蔵され、長年の採掘にも枯れることなく産出。国土にリンが全くなく100%輸入に頼っている日本にとって大事な供給国がヨルダンです。また、ヨルダンの主要な輸出品にもう一つの肥料要素、カリウムがあります。地球の大地溝帯の最北端に位置する海拔マイナス400メートルの

死海は、ヨルダン川がアラビア湾と繋がる紅海まで流れず、堰止湖のような存在です。有史以来長年砂漠気候の強烈な日光により湖水が蒸発し、普通の海の10倍の塩分濃度30%の塩湖となります。塩はナトリウムとカリウムの結晶なので大量のカリウムが生産できます。残りの肥料の要素、窒素はどうでしょうか。エジプト・ヨルダン・シリアは古代から原産植物であるイナゴ豆が広く栽培されてきました。サトウキビが発見されるまで甘味料としても利用されてきました。豆類の植物の根は、空気中に80%も含まれる窒素を生物的に土に取り込む根粒菌を含み天然の肥料となります。つまり、水さえあればこの地域は大穀倉地帯になれるのです。実際、現在より降水量があったとされる古代において大河の水もありますが、古代の世界4大文明の2つ、エジプト、チグリス・ユーフラテス文明が発生したのも十分うなずける話なのです。



摂津市国際交流協会

〒566-0021 摂津市南千里丘 5-35

摂津市立コミュニティプラザ 2F

TEL: 06-6319-6251 FAX: 06-6318-6004

Email: office@settsu-saie.org

URL: <https://settsu-saie.org>

開室時刻: 平日 9:30~12:00、13:00~16:30

(休館: 第4水曜日)

会員募集

●年会費: 個人: 3,000 円 / 家族: 5,000 円

青少年: 1,000 円 / 法人・団体: 10,000 円 (1口)

●当協会の事業に無料または割引での参加特典がございます。

●「かわら版」のお届けと催事参加申込みなども優先的に受け付けます。

協会 HP

